

① PFAS 汚染の実態解明と調査を1

横田基地の泡消火剤などが原因とされるPFAS汚染。市所有井戸の水質検査も今年秋から調査頻度などが拡充されます。

私たちの安全を守ると謳っている基地が私たちの命や健康を脅かしている。本末転倒です。横田基地や国に対して責任と対策をしっかり求めたいきます。

2 進めて大丈夫？GLP プロジェクト

昭島市での物流センター計画。出入するトラックの多くは立川を通る見込みで、渋滞の深刻化や、環境悪化を懸念しています。他の議員たちとも連携しながら、地元のためにできることを探っていきたいと聞きます。

③ 歴史探訪、最初の砂川分水 取水口はどこ？

市民の方とともに、立川の歴史に関する各所を巡り、調査を進めています。砂川分水の取水口が、かつて稲荷橋の上手にあったというお話を伺い、実際にその場所に足を運びました。周囲の地形や痕跡を確認しながら、その存在を示す遺構や跡跡を探りました。

4 砂川学習館が建替え完了！

砂川学習館の建替えが完了しました。砂川の歴史に関する展示も残すことができました。元砂川町役場としての面影を残し、砂川らしさを継承できたことは大変良かったと感じています。

5 競輪場のリニューアル

競輪場では、メインゲートから飲食コーナー、ステージに至るまで、大規模なリニューアルが行われました。

6 旧健康会館の今後

健康会館が閉館。当館は児童保育所として活用されます。これにより児童保育待機児童の解消を目指します。学童は暫定利用ですが、今後、更に市民にとって喜んでいただけるような活用の在り方を考えていきます。

7 二小の建替えが開始

第二小学校の建替え事業が始まりました。校舎の取り壊しに先立ち「校舎にありがとうプロジェクト」として校舎へのペイントが施されるなど、二小の思い出を振り返るさまざまな企画が行われました。

今回の建替えでは、「子どもが主役となる学校」の構想をこ

が主役となる学びの場」をコンセプトに、校舎は3階建てのコンパクトな設計とながら、ワークスペース等を配置し、学びや多様な交流が生まれる環境が整備されます。さらに、学校・学童・児童館・地域が一体となった複合施設として、地域コミュニティの拠点機能も担う計画となっています。

立川市議会議員

山本ようすけ

発行日：2026年3月28日 発行・
連絡先：〒190-0011 立川市高松町2丁目19-1
TEL：080-5650-7833 Email：lyerayou@gmail.com

山本ようすけ の 思い

不公正や不平等と たたかう
立川市民の暮らしを ぼうぎょ
政治は生活を良くする どうぐ
日々の暮らしは政治から にげられない！

10 居住相談窓口の拡充が実現

市役所で毎週木曜日に実施されている
居住相談窓口が拡充され、市所が難しい
方への訪問相談が可能となりました。

予算特別委員会での質疑に対し、市か
らはこの相談窓口について「全国でもトッ
プクラスと自負している」との答弁があり
ました。私も周辺自治体の状況と比較し
て、その評価は妥当だと感じていました。
今後も、この居住相談窓口が多くのの方々
の支えとなるよう、さらなる充実が図ら
れることを期待しています。

9 歷史民俗資料館や史料

今後を考える
多くの市民の方から史料を寄贈し
ただいていることもあり、収納スペース
もかなり逼迫しています。資料館自
体の在り方と共に、史料保存の方向性
を策定していくよう、求めています。
今後の歴史民俗資料館も、在り方を
検討する時期に差し掛かっています。

立憲ネット緑をちがひ冒険の仲間(会派)

山本は4人の仲間たちとチーム(会派)を組んで活動しています。



Lv.57:III	Lv.58:III	Lv.59:III	Lv.60:IV-2	Lv.61:第1
...	...	...	...	...

おまけ と があるよ!

(小中学生のみの方へ) 小学校 中学校

気候変動対策の一層の推進を！

公共施設における再エネ化は拡大の方向性へ！

立川市では「第2次地球温暖化対策実行計画」(市役所や小中学校など市の公共施設等の計画)において、2030年度までに2013年度比で42%の温室効果ガスの削減を目指しています。

公共施設での太陽光パネル・蓄電池の設置や再エネ調達なども少しずつ進んできました。

可燃ごみの焼却熱も発電に利用され、市役所の電力が賄われています。こうした再エネの仕組みを更に推進していきます。



立川市全体のCO2削減に向けても少しずつ！

市全体の温室効果ガス削減に向けても少しずつ取り組みが始まっています。2025年度は住宅の新築改修を市内事業者が発注すると、最大5万円の補助が受けられる制度が始まりました。市で用意した総予算額は150万円。事業開始後、申請が相次ぎ、早々に上限に達しました。

2026年度は250万円と予算が拡充。市内事業者の支援と気候変動対策を両立させる取り組みとして、今後の展開にも期待が高まります。ただ、こうした取り組みは賃貸住宅にお住まいの方には届いていない側面もあります。本来、気候変動対策はすべての人が参加できるものであるべきです。誰もが無理なく関わることで、より効果的な政策を今後も求めていきます。

生ごみたい肥化事業が拡充！

市の事業として定着できるか注目！

これまで大山団地で行われてきた生ごみのたい肥化が2024年10月から、団地の外でも複数の世帯でグループを組めば回収してもらえる形で拡充されました。私も拡充を求めてきた取り組みであり、大きな前進です。

当初は参加するグループが集まらないなど課題もありましたが、参加世帯からは「ごみに対する意識も高まった」、「続けて欲しい」と大変好評です。現在は試行的な取り組み段階ですが、本格的な事業としての定着を目指していきます。

マイクロプラスチック対策の推進を！

少しずつ対応は進んでいるものの…

私たちは、1週間にクレジットカード1枚分のプラスチックを摂取しているとも言われており、健康への影響も懸念されています。

こうした中、立川市でも対策が一步進みました。新たに整備された人工芝については、排水口にフィルターを設置する等、マイクロプラスチックの流出を抑える取り組みが実現しました。

また、学校給食で使用するストローも、生分解性バイオポリマー製のものへと切り替えられ、環境学習の観点からも意義のある取り組みとなっています。

一方で、プラスチック問題は依然として大きく、根本的な解決には国レベルでの政策の転換が必要だと感じています。

市としてできることの限界を感じながらも、市の清掃キャンペーンの取り組み強化など、少しでもできることを、これからも求めていきます。



①多摩川クリーンアップキャンペーン
②新築した人工芝の排水口にはフィルターが設置されている
③新築した人工芝の排水口にはフィルターが設置されている
④新築した人工芝の排水口にはフィルターが設置されている

マイクロプラスチックによる川の汚染をリサーチ中

解散総選挙、現場の負担は？

時間外勤務200時間超と大きな負担が…

今回の衆議院総選挙は、解散から投票日までたったの16日と、極めて短い準備期間で実施されました。通常は2か月以上前から準備が進められるところ、今回は事務が短期間に集中し、投票所入場整理券の配布などにも影響が生じました。

さらに、選挙事務に従事した職員3人で約680時間、1人あたり200時間を超える時間外勤務が発生するなど、現場に大きな負担がかかっていたことが、私の一般質問を通して明らかになりました。

いわゆる「選考死ライン」とされる100時間を大きく上回る状況が生じたことは、重く受け止める必要があります。そのような中でも選挙を適正に執行した選挙管理委員会および事務に従事された職員の皆様には、深く敬意を表します。

本来、選挙は民主主義の根幹であり、安定的に運営されるべきものです。今回明らかになった現場の実態を踏まえ、どのような準備期間や体制が望ましいのか、今後しっかりと検討していく必要があると感じています。

若者会議が実現しました！

初年度は「若者会議のあり方」を若者自身が議論

議員になって以来、若者の声を政策に反映させる仕組みの実現を提案してきました。このたび、その取り組みとして「若者会議」が実現しました。

SNSやホームページでの周知に加え、対象年齢の市民に案内を送付するなど若者の参加を得て、昭島市との共同開催で昨秋から計4回にわたり実施されました。

初年度は、そもそも若者会議とは何か、そのあり方自体を若者自身が議論しました。最終発表会では、立川・昭島の両市長が出席する中で、「若者の声を行政に届ける場」、「コミュニティをつくる場」、「一歩踏み出し挑戦する場」といった提言や、親しみやすい名称の検討など、今後につながる重要な方向性が示されました。若者の声を政策につなげる仕組みが、いよいよ動き出しました。

26年度は若者たちの政策提案を実現へ

次年度はさらに踏み込み、参加者が考える地域課題の解決に向けた議論を行い、具体的な政策提案へと発展していく予定です。一般質問では、こうした提案が「聞いて終わり」にならないよう、実際の施策に反映できる仕組みの必要性を訴えました。

その結果、市からは、議論の成果を施策に反映できるスケジュールで実施し、提言にとどまらず実際の施策として展開可能であるとの考えが示されました。若者の声を政策に反映していく取り組みとなるよう、引き続き取り組みを進めていきます。

山本ようすけ (立川市議会議員)

1990年11月6日 武蔵村山生まれ、稲城育ち
2009年 立川高校卒業
2014年 一橋大学 社会学部 卒業
外資系コンサルティング会社に就職
2018年 立川市議会議員選挙に立候補、初当選 (1,288票)
2022年 立川市議会議員選挙、二期目の当選 (2,082票)
会派「立憲ネット緑たちかわ」、厚生委員会 委員長

【議員以外の所属等】

保護司、緑の党グリーンズジャパン、如水会(一橋大学同窓会)会員
気候危機・自治体議員の会(呼びかけ人)、東京会(立川高校同窓会)会員
【好きなこと】
歴史、博物館や美術館に行く、登山、散歩
ゲーム、ドラクエなどRPG

各種 SNS 等「山本ようすけ」で検索



「Ifu若者会議」の開催に臨んだ立川市長と昭島市長

若者会議の開催に臨んだ立川市長と昭島市長

若者会議の開催に臨んだ立川市長と昭島市長

若者会議の開催に臨んだ立川市長と昭島市長

若者会議の開催に臨んだ立川市長と昭島市長